

第 124 期定時株主総会 質疑応答要旨

本資料は、2024年6月24日（月）に開催した当社第124期定時株主総会において、株主の皆様から当日いただいた主なご質問と、その回答を要約したものです。

Q1. 親会社の住友化学株式会社（“住友化学”）から当社株式を買い取り・償却する、あるいは取引先に当社株式を保有いただき、住友化学による当社持株比率を減らすことで、株主還元や当社の事業拡大につながると考えるが、意見を伺いたい。

A1. まずは、住友化学が当社株式を売却するか否かは、住友化学の判断によるものであることを申し上げたい。また、同社とは、事業だけでなく技術的・人的交流をはじめ、有形無形の深い関係がある。このことから現時点で、住友化学から自社株の買い取りを打診したり、取引先に当社株式を保有いただくよう働きかける等により、住友化学との関係を解消したり希薄化するという考えはない。

Q2. 当社の淀川工場の敷地は広く土地の資産価値は高いと推察する。また、工場と近隣の住宅が密集しているため、工場の爆発や火災時の被害が懸念されうる。そこで工場の一部移転させ、空いたスペースを商用地等に貸し出すこと等で、安定した不動産収入を得られると考えるが、意見を伺いたい。

A2. 淀川工場において長年蓄積された製造技術は当社の財産であり、移転することでその知識・ノウハウが失われかねず、この地で操業を継続する意義があると考えている。他方、近隣住民の方々が引き続き安心して暮らしていただけるよう、万全を期して安全対策に取り組んでいきたいと考えている。

Q3. 住友化学の業績が厳しいなか、同社の役員を新たに非常勤取締役の候補者とする理由を伺いたい。

A3. 本人のこれまでのご経歴、当社の事業と本人の専門知識との親和性を勘案し、候補者として適任と判断した。

Q4. 佐々木社長が就任した時の株価に比べ、足元の株価は、3割ほどになっている。現在の株価についてどう考えているのか伺いたい。

A4. 株価の下落については申し訳ないと考えている。公表済の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（2024年3月27日付）（“資本コストや株価を意識した経営の実現”）」に記載のとおり、コスト上昇に伴う価格転嫁、コスト削減、新製品の早期事業化等の諸施策に取り組み、株価を上げていきたいと考える。

Q5. 資本コストや株価を意識した経営の実現には、「内部留保を確保しつつも、安定配当を実施してきた」と記載されているが、配当金額については、毎年大きく変動している。安定配当の意味について伺いたい。

A5. 安定配当というのは、利益水準が落ちても、配当を継続してきた趣旨で記載した。

Q6. ワニスの事業が伸び悩んでいる理由について伺いたい。

A6. ワニスについては、EV だけでなくハイブリッド・カーにも使われるものである。中期的には成長分野である。伸び方は直線的ではないのが実情であるが、収益事業として成長していきたいと考えている。販売量は減っていないが、溶剤価格が下がっていることから、売上高が落ちている。

以上